

来年秋は、福岡へ行こう！



清水 徹 男 (P A 会)

「日弁」誌への原稿依頼を受けて、最初は忙しいから、と断わろうと思った。そこで断わりの電話を会報委員会の藤谷副委員長に入れたら、何とかありませんか、と逆に泣き落されてしまった。気が弱いからいつもこのように頼まれて、そしてあとで引受けなければよかった、と後悔する。

後悔といえば、来年10月に福岡市で開催されるAPAA（アジア弁理士協会）理事会の準備委員長を引受けたのも今となっては後悔のタネである。「清水さんでなければ……」などとおだてられて引受けたはよいが、その忙しさは予想をはるかに凌駕して言語に絶し、後悔しきりであるが、今となっては手遅れである。後悔先に立たず、とは真である。

そもそもその大役を引受けさせられたのは、私が福岡の出身ということだけが理由である。能力があるからではない。しかし引受けたからには何とか会を成功に導きたい。そこで諸先生方、特に福岡在住の松尾先生、梶原先生にご助力をいただき、ナンデダロと後悔しながらも、なんとかソレらしい格好に準備をまとめあげたところである。

会場は、ダイエー・ホークスの根拠地の福岡ドームに隣接する巨大ホテル「シーホーク・リゾート」、ここだけで軽く千人を収容できるから分宿の必要はない。ところでご存知ない方のためにお知らせするが、福岡市ほど空港が近い都市は国内に稀である。国内線、国際線いずれのターミナルからも都市高速道路を利用すれば、中洲や天神など街の中心部を乗り越してホテルまで正味15分で着く。

しかもこのホテルが私が多感な青春時代を過ごした母校、福岡県立高校脩猷館（旧黒田藩校、天明4年〔1784年〕創立、但し学舎は当時のままではない）に近いのも何かの縁。博多湾に峻立するこのホテルに来年10月には内外の弁理士とその同伴者約千人が

集い、24日から27日までの4日間にわたり各種委員会やワークショップで知的所有権の諸問題を議論し、エキスカージョン（小旅行）や毎夜のレセプション・パーティで友好を深める。

参加者の多くは我々と同色のアジアの人々だから話をするにも気おくれすることがない。つたない英語が通じなければ手まね身振りで気持ちを通じ合わせるのも楽しい。しかも欧米からのオブザーバーも多数参加する（はずである）から、得難い情報交換の機会でもある。

本格的な国際会議ということで福岡市の援助体勢にはめざましいものがある。レセプションの会場に福岡ドームを予定したのはよいが借用費用が高いので困っていたら、ホテルに近い福岡市博物館の利用を手配してくれた。外国ではまあることだが、日本でもこのような公立の施設を私的会合に利用させてくれる時代になったことはまことに喜ばしい。

ただし、博物館の利用には条件がつけられた。といっても、一階の豪壮広大なロビーでパーティを行うのはよいとして、二階の展示室を必ず見てほし



福岡理事会宣伝ウチワ 今年10月にマレーシアで開催されたAPAA総会で配って好評だった

い、というのが条件である。ここには「漢委奴国王」と刻された国宝の金印や、黒田節にでてくる母里太兵衛が福島正則から飲み取った名槍「日本号」など、興味深い品々が陳列されている。見てくれと言われなくても見たいところである。

福岡市に劣らず福岡県もなにかと協力してくれている。なにしろ県知事は元特許庁長官の麻生渡さんだから、弁理士についての理解が充分であることは申すまでもなく、また知己も多い。県の紹介で、エキスカージョンの目的地の一つにトヨタ自動車の最新鋭の組み立て工場を加えることができた。

このように来年10月には福岡で、すごいイベントが行われる。APAA 会員ならずとも弁理士であれば誰でもオブザーバーとして参加できる。(但しオブ

ザーバーとしての参加は一回限り、その後の会合にも参加するには入会が必要)

わが国におけるこのような弁理士だけの国際会議の機会は、先日の火星の大接近と同じで(?)、これを失するとしばらくは、無い。海外に目を向けようとする弁理士には絶好の機会である。

準備に追いまかれて後悔しながら、せいぜい多数の先生方にこの得難い機会をご利用いただこうとご紹介する次第。私は準備委員長を引受けて後悔しているが、皆さんが参加されて後悔することは絶対にならないように準備万端整えている。だから、

来年秋は、福岡へ行こう!